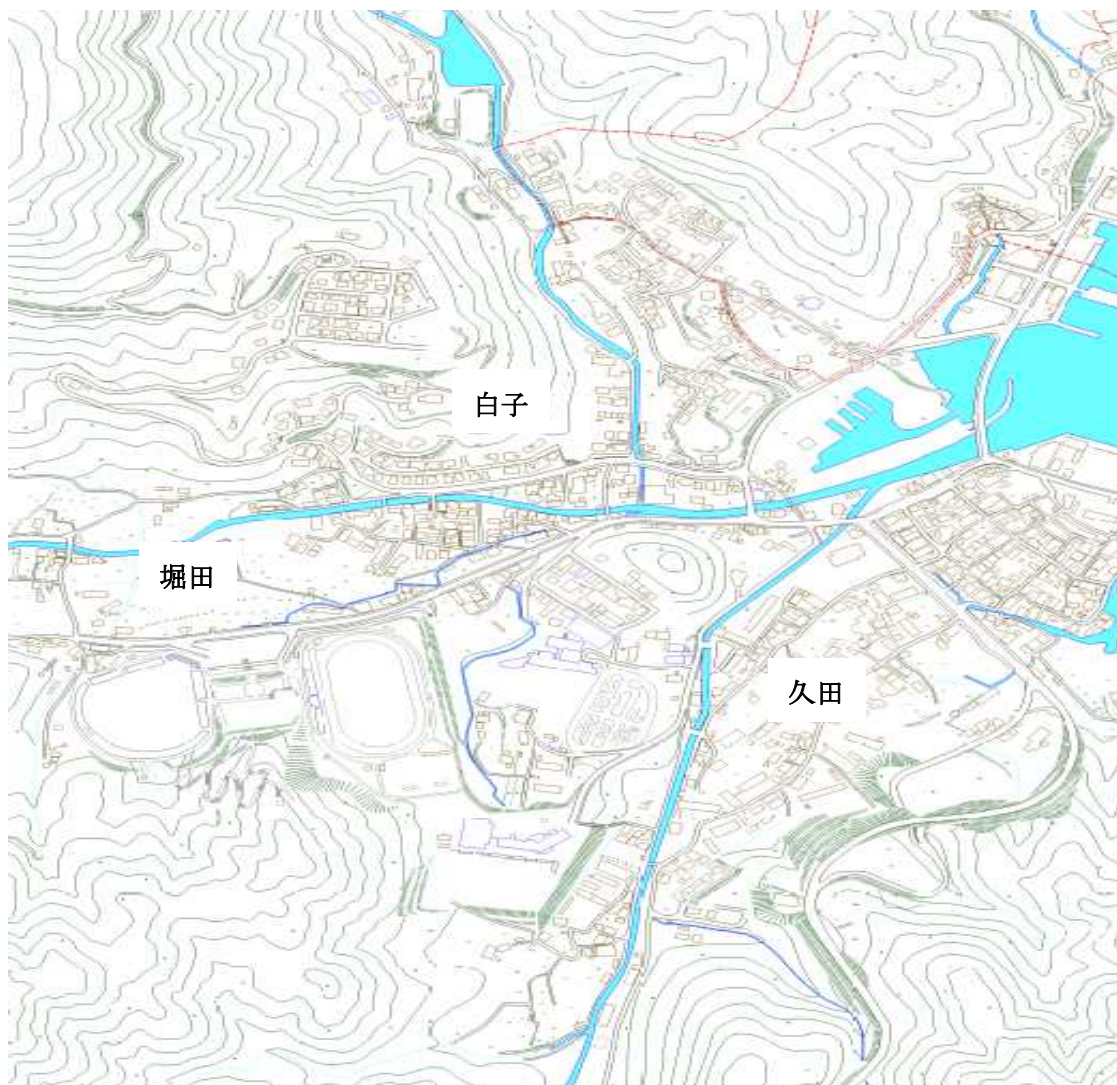


久田3地区（久田・白子・堀田）

地域づくり計画書



平成27年9月

目 次

1. 現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～3頁
 - (1) 自然環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1頁
 - (2) 道路とアクセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1頁
 - (3) 地区毎の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2頁
 - (4) 地区の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3頁

2. 私たちが大切にしたいこと・・・・・・・・・・ 4頁

3. 目指す地区の将来像・・・・・・・・・・・・・・・・ 5頁

4. 活動の3つの柱と取り組み事項・・・・・・・・ 6～19頁

1. 現状と課題

(1) 自然環境

久田、白子、堀田の3つの地区がある久田谷は、南を向山、西をダシ山、北を丸隈山と、三方を山に囲まれており、春は山桜が、初夏は新緑が山肌をいろいろ、目を楽しませてくれます。

周囲の山裾から流れ出た水は新川、久田川、増田川となり、東側の河口近くで合流して巖原港の湾奥、久田浦に注いでいます。昔は清流に鮎やホタルが多くみられたそうですが、近年では生活排水の流入や森林の荒廃、豪雨等で川床が荒れ、水の汚れが目立ってきています。

(2) 道路とアクセス

巖原市街地から海岸沿いに県道巖原豆酛美津島線が町の中央部を走り向山を斜めに登りトンネルを経て尾浦方面へと続いています。近年では巖原港湾整備計画の一環として片側一車線の湾岸道路が整備され、巖原市街地との時間的距離が一層短縮されました。側道の歩道は景観も良く、朝夕、久田、巖原双方からジョギングする市民をよくみかけます。市民の足としてはコミュニティバスが巖原—久田間を定期的に運行しており、通勤通学や買い物等に利便が図られています。また、北側の白子からは丸隈山を斜めに越えて日掛へと通じる道路が整備されています。

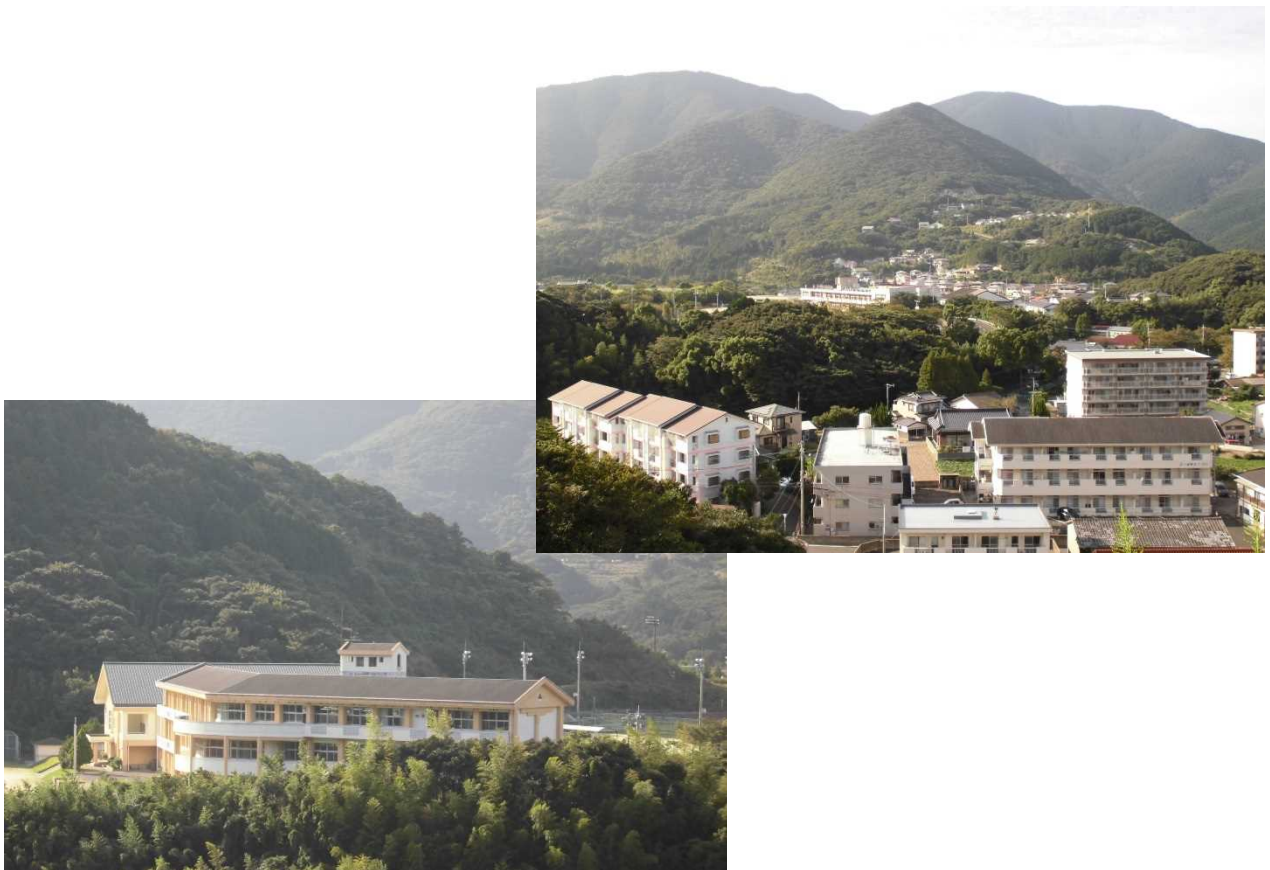


(3) 地区毎の状況

3地区のなかで世帯数、人口ともに最も多い久田地区は新川の右岸に位置しています。中央を南北に走る道路で東西に二分され、道路沿いにはスーパー等の商業施設が立地してきています。東側は石垣塀が残る昔からの集落ですが、近年では久田浦の埋立により港湾関係の事業所や公営の団地等が出来ています。以前は農地だった西側は今では市街地になり、事業所や戸建ての住宅、民営アパート、公営の団地等ができてきています。

人口、世帯数で久田地区に比肩する白子地区は、新川の左岸、久田浦寄りに形成された地区ですが、近年、丸隈山の中腹、市道久田日掛線沿いの高台に住宅団地が造成されたこともあって、戸建ての家を建てて移住した人が今では大多数を占めています。この地区には県史跡のお船江があり、小学校や中学校、自動車教習場、ありあけ会館等の公共施設が集積しています。新川の中流部にはまだ農地が残されていますが、荒廃地もみられ利活用が課題となっています。

堀田地区は、久田川の右岸、上流に位置し、世帯数、人口ともに非常に少ない地区です。地区に市の総合運動公園があり、奥の方には農地が広がっていますが、白子地区同様、利活用が課題となっています。



(4) 地区の活動

3 地区とも区長のもとに班長はじめ各役員が組織され、行政との連携のもとで地区活動がなされていますが、地区によって幾分差違がみられます。

世帯数、人口共に最も多い久田地区には、区の組織とは別に、本戸と呼ばれる46戸で組織される久田自治会があり、自治公民館を所有して独自の活動を行うとともに、地区の祭りや伝統行事等を区と協力して行っています。一方、本戸を含む組織である久田地区の方は、活動拠点としての独自の集会施設が無く、自治公民館を随時借りて活動がなされています。

白子地区は、会議室や和室、ミニ体育館等の施設を備えた「ありあけ会館」を市から借り受け、会議やサークル活動の拠点として利活用しています。また、堀田地区は久田、白子地区に比べて世帯が非常に少ない地区ですが、独自の公民館を持ち、集会等に利用しています。

2. 私たちが大切にしたいこと

久田浦に面した久田谷は海あり、山あり、川ありの自然豊かな地域です。

そこには、この豊かな自然と向き合い、営まれてきた伝統的なりわいがあり、久田ならではの多くの自然の恵みや産物があります。

そして、それらを生活の糧としながら、互いに助け合い・思いやってきた先人のくらしが息づいています。

お茶合やふなぐろう、亥の子等の伝統行事があり、お船江をはじめとする史跡が残されています。

巖原のベッドタウン化により市街地が増えるなか、小学校、中学校、総合運動公園等の公共施設が整えられ、学びと交流の場が広がってきています。

私たちはこれからも、これらを久田の宝として大切にしていきたいと思えます。

暮らし

助け合いと思いやりの心

安全・安心

魚や野菜等のおすそ分け

リラックス農園

巖原のベッドタウン

なりわい

久田の里芋、自然薯

久田の共有林

農漁家、対馬物産館、

民宿、お船江、

スキューバダイビング

学び・交流

地区の文化・祭り

(お茶合、ふなぐろう、

亥の子)、ありあけ会館、

総合運動公園、

小学校、中学校

風景・環境

向山の山桜、里山、

在来種の花とみどり、

ホテル(源氏ぼたる等)、

お船江、けやき通り、

石垣の路地、

ゴミのないまち

3. 目指す地域の将来像

「豊かな自然と文化に育まれる ふれあいの里」

春の山桜、初夏の新緑、秋の紅葉と、四季をいろどる里山に囲まれた久田谷の里では、四季折々に色とりどりの草花が咲き乱れています。

環境美化の取り組みによりゴミのポイ捨てや犬猫の糞の放置がなくなり、街灯の設置や市民による花壇づくり等で、きれいに整備された歩道は行き来する人たちの笑顔であふれています。

久田川に清流が戻り、フットライトで照らされた川沿いの道には、夏の涼やホタルを求めて歩いている人が多くみられます。

祭りや伝統行事が3地区全体の行事として実施され、宣伝等が行き届かなか、どの行事も参加者が増え、賑わっています。

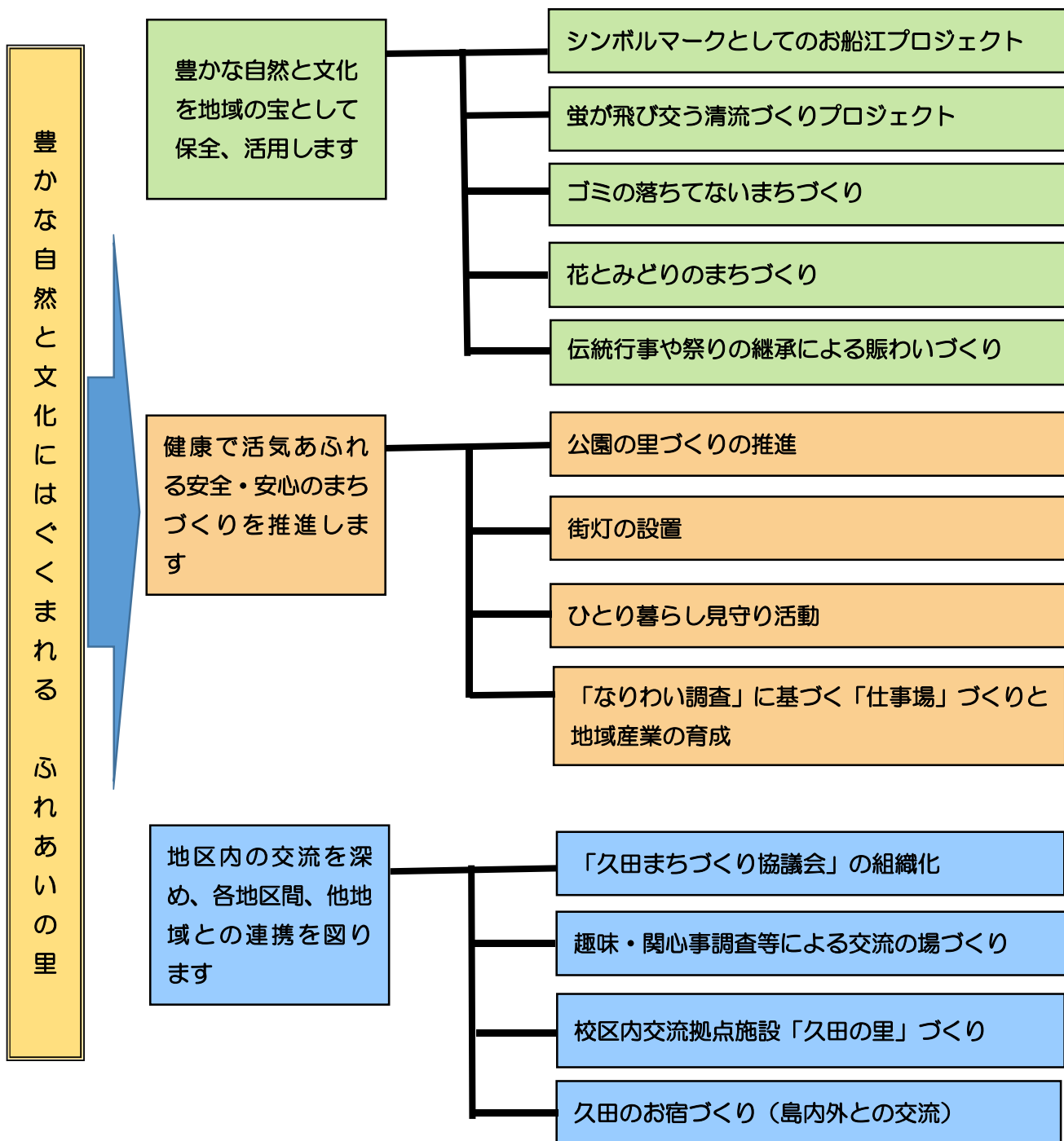
総合運動公園をはじめ、観光スポットのお船江史跡公園、久田川沿いに整備された里山公園、幼稚園跡地の学童公園など、久田は公園の里として全島に知れ渡り、たくさんの市民が訪れ憩っています。とりわけ、お船江はトイレ、休憩所、お土産屋、大型バスの駐車場等が整備され、対馬の代表的な観光名所として、久田のシンボルマークとなっています。

久田谷に住んでいるたくさんの人たちが、地元の生産物やサービスを受けられる仕組みが出来て、生活するうえでの大抵のことは久田やその周辺で賄えています。

おもてなし観光を核にした地域産業おこしが進み、「民宿」や「民泊」等の宿泊施設が用意された結果、久田と縁のある多くの観光客が一年を通してたくさん訪れています。釣りや農業体験、海水浴等、久田の日常が商品化され、特産物の土産物等が喜ばれています。観光客が増えたことで、特産品の開発や企業化が進み、仕事場づくりが着実に進んでいます。

久田3地区まちづくり協議会が組織され、住みよい街づくりのために皆で行動しています。校区内の他地区との連携が進み、交流拠点施設の「まちづくりコミュニティセンター」（仮称『久田の里』）には、共通の趣味を持つ人が集まり楽しく交流しています。見守り活動により、ひとり暮らしの高齢者が寂しさを感じることなく、自分の住み慣れた地域で安心して楽しく生活しています。

4. 活動の3つの柱と取り組み事項



1. 豊かな自然と文化を地域の宝として保全、活用します

(1) シンボルマークとしてのお船江プロジェクト

目指す
近未来の姿

お船江は、島の内外からたくさんの観光客が訪れる対馬の代表的な観光名所として、久田のシンボルマークとなっています。

久田の案内板、トイレ、休憩所、お土産屋等があり、大型バスの駐車場も新設され、いつも観光や地元の特産品を買い求める人々で賑わっています。

突堤の石垣の修復やお船江を周遊する歩道が整備され、住民の手で環境保全がなされています。

広場では、春の「花見会」、夏の「お船江まつり」、「フリーマーケット」、冬の「イルミネーション」等々、多彩な催しが行われ、賑わっています。

〔現状と課題〕

環境整備が必要。案内板と広場しかなく、一方方角からでしか見ることができません。

お船江に入る道路が狭いため、バスが通れず、大型バスの停留場がないため、観光客が来ても滞在時間が短く、足を止めません。

→大型バスが通れる道路の整備と駐車スペースが必要です。

→「お船江整備委員会(仮称)」なるものを久田、白子、堀田及び行政で起ち上げ整備計画を作成し、行政と共に整備する必要があります。

除草等の保全作業が持ち主や特定のボランティア任せになっています。

〔前期(1~5年)の取り組み〕

- ☞行政、「まちづくり協議会のお船江部会(仮称)」、所有者等による「お船江史跡公園づくり協議会」(仮称)を発足させ、それぞれの取り組みの現状を確認し、今後の方策を協議するとともに、可能なものから具体化していきます。
- ☞行政により、崩れた突堤の石積みの修復と周囲の障害樹木の伐採を行います。
- ☞お船江を回る遊歩道を整備し、入り江の奥から眺められるようにします。
- ☞南側の広場と散歩道、突堤等の除草を定期的に行い、環境の保全に努めます。
- ☞広場を久田内外の人々が集う賑わいの場にするために、「桜の花見会」を手始めに、夏の「お船江まつり」や「フリーマーケット」、冬の「イルミネーション」等の催しを可能なものから企画していきます。

〔後期(6~10年)の取り組み〕

- ☞引き続き、除草等の環境整備や広場での賑わいづくりイベントを企画します。
- ☞行政に対して、広場隅への「トイレ」の設置、大型バスやマイクロバス、ワゴン車等が利用できる「駐車場」、「休憩所」の設置を求めます。



1. 豊かな自然と文化を地域の宝として保全、活用します

(2) 蛍が飛び交う清流づくりプロジェクト

目指す
近未来の姿

地区に清流が戻り、暑い日でも川沿いを歩いていると、澄んだ水とせせらぎで涼しい気持ちになります。春・秋には蛍が飛び交い、子どもたちが蛍を追いかけるなど、巖原市街地で唯一の「蛍」見物のスポットとなっています。

〔現状と課題〕

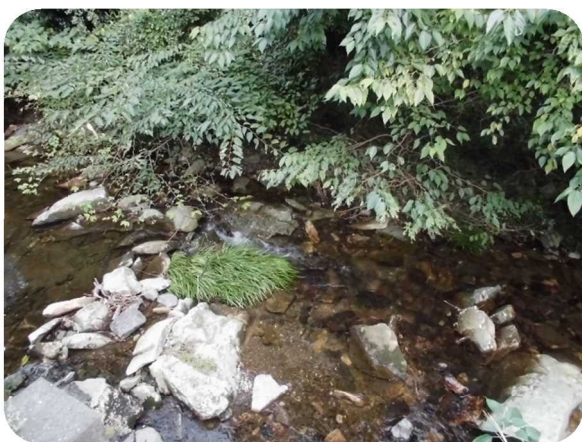
20数年前は、蛍が乱舞した「増田川」でしたが、現在では川への土砂や生活排水の流入、ゴミのポイ捨て、川床の雑草の繁茂等で川が汚れ、蛍が減少してきています。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 森林組合や久田自治会と協力して里山の保全に努め水源の涵養を図ります。
- ☞ 川の流域を毎年定期的に見回り、危険箇所等の点検を行います。
- ☞ 行政をお願いして河川や側溝の整備、浄化槽整備の促進を行います。
- ☞ 川を定期的に清掃し、川周辺のメンテナンス(きなきが潜れるような柔らかい土づくりなど)を行います。
- ☞ 行政と協力して蛍が飛び交う様子を観察できるように川辺に降りられる場所をつくります。
- ☞ エサとなるカワニナ等の生き物の調査を行い、保全に努めます。
- ☞ 川を汚さないようにするために看板の設置等による啓発活動を行います。

〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 引き続き整備や清掃を実施します。
- ☞ とりわけ、生活排水の流入対策として行政と協力して浄化槽の促進を図るとともに環境にやさしいエコ洗剤の使用や竹炭等による浄化に取り組みます。



1. 豊かな自然と文化を地域の宝として保全、活用します

(3) ゴミの落ちてないまちづくり

目指す
近未来の
姿

久田小学校の子どもたちが考えた環境美化の標語が設置され、皆がポイ捨てをしないように心がけています。ゴミが減ったことで、動物を飼っている人も糞を持ち帰る意識が芽生えています。

歩道がきれいに整備され、市民による花壇づくり等がなされたこともあって、ペットと散歩したりジョギングする人たちの活気があふれています。

〔現状と課題〕

空き缶やたばこの吸い殻などのゴミのポイ捨てや川への不法投棄、ペットのフン等が見受けられます。年1回（6月）の清掃活動だけでは限界があります。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 「ポイ捨て禁止地区宣言」を行い、住民に周知します。
- ☞ 小学校に依頼し、募集した標語やポスターを掲示します。
- ☞ 久田小学校区内でペットを飼っている人を把握し、糞処理への注意を促します。
- ☞ ゴミ拾い等の清掃活動を定期的に行うとともに、住民に家の周りの日常的な清掃を呼びかけます。



〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 引き続き諸取り組みを行うとともに、花とみどりのまちづくりと合わせて、対馬の環境美化モデル地区指定を目指します。

1. 豊かな自然と文化を地域の宝として保全、活用します

(4) 花とみどりのまちづくり

目指す
近未来の
姿

春の山桜、初夏の新緑、秋の紅葉と四季をいろどる久田の里山に囲まれた久田谷の里では、一面に四季折々に色とりどりの花の絨毯が広がっています。一年を通して四季を感じる草花や花木が咲き乱れています。

〔現状と課題〕

一部の地区では「花いっぱい運動」により道路沿いに何カ所か花壇が作られ街路の景観が向上しているところもありますが、まち全体としてみれば、自然の緑はあるものの、花は数が少なく、手入れが不十分です。休耕地が多く、景観を損なっています。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ➡現在一部の地区でおこなわれている「花いっぱい運動」を3地区全体の運動にして、花とみどりのまちづくりを推進します。
- ➡街路や空地、耕作放棄地などを調査し、区の助成金や市の補助制度を利用して、四季を感じる花、樹木（広葉樹等）の植栽を行います。

〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ➡ガーデニング教室や花とみどりの市を開催、草花に興味を持ってもらう活動を行います。
- ➡「まちなかガーデン景観賞」（団体）、「マイガーデン景観賞」（個人）を設け、毎年、3、4カ所ずつ表彰します。



1. 豊かな自然と文化を地域の宝として保全、活用します

(5) 伝統行事や祭りの継承による賑わいづくり

目指す
近未来の姿

3地区で個別に行われてきた祭りや伝統行事が3地区全体の行事として「伝統行事と祭部会」に統合されたことで、運営がしやすくなり、情宣等も行き届くようになった結果、どの行事も参加者が増え、賑わっています。途絶えた祭りの掘り起こしや新たな祭りづくりも始まるなど、地区内が活気にあふれています。

〔現状と課題〕

少子・高齢化で、一地区内での祭りや伝統行事の継承が困難となっています。

伝統行事の周知が足りず、地区住民でも知らない人がいます。

3地区が連携してこれらの行事を行うとともに、地区住民全てに周知する体制づくりが求められています。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 伝統行事や祭りの継承を図るため、3地区の伝統行事や祭りに関する実態調査を行い、地区住民が子どもから高齢者まで参加しやすい仕組みを作ります。
- ☞ 3地区統合の年間行事予定表の作成・配付や有線放送等での案内、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を使った宣伝等を行います。

〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 高齢者の協力を得て、現在、行われていない行事や祭り等を掘り起こし、記録するとともに、可能なものについては再興します。
- ☞ 現代の久田地域にあった新しい祭りや行事の企画を募り、可能なものは具体化していきます。



2. 健康で活気あふれる安全・安心のまちづくりを推進します

(1) 公園の里づくりの推進

目指す
近未来の姿

運動をメインにした総合公園を始め、観光スポットのお船江史跡公園、久田川沿いに整備された里山公園、幼稚園跡地の学童公園など、久田は公園の里として全島に知れ渡り、日曜祭日を問わず、老若男女、たくさんの市民が訪れ憩っています。

〔現状と課題〕

久田には自衛隊の官舎や市営住宅等があり、子育て世代の人が多く住んでいますが、幼児・子供を遊ばせる遊具等を設置した場所がありません。

市の総合公園は運動がメインの公園で、市民が憩う場としての公園ではありません。お船江や久田幼稚園跡地、里山等を活用して、老若男女、多くの市民が集う場所づくりが必要です。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 総合運動公園内の小山の展望スポットを整備し、花木の植栽等をすすめます。
- ☞ 地区で遊具設置を市に要望します。できるだけ大きめの遊具（例：スライダー）を設置し、公園のシンボルマークとします。
- ☞ 久田幼稚園跡地を学童公園として整備します。

〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 周囲を散策できる史跡公園として、お船江を整備します。
- ☞ 久田川沿いの里山一帯に散策コースやあずま屋等の休憩施設を設置し、里山公園化を進めていきます。



2. 健康で活気あふれる安全・安心のまちづくりを推進します

(2) 街灯の設置

目指す
近未来の姿

夜道でも、子どもや女性が安全・安心して歩けるように、一定の間隔で街灯が設置されており、夕方になっても明るく、部活で遅くなった中学生やウォーキングをする人たちが安心して通っています。

ホタル川沿いの道にはフットライトが整備され、夏の涼やホタルを求めて歩いている人が多くみられます。

〔現状と課題〕

街灯がない暗い場所があり、夜間にウォーキングする人や部活等で遅く下校する中学生には不安です。

ホタルのいる清流づくりには、街灯があまり明るくない環境が必要です。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 地区内を点検し、設置個所や必要個所等を記載した「街灯マップ」を作成します。
- ☞ 危険と思われる場所を優先して街灯の設置を市に要望していきます。



〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ ホタル川沿いには、足元を照らす街灯(フットライト)を多く設置するよう配慮します

2. 健康で活気あふれる安全・安心のまちづくりを推進します

(3) ひとり暮らし見守り活動

目指す
近未来の姿

見守り活動により、ひとり暮らしの高齢者が寂しさを感じることなく、自分の住み慣れた地域で安心して楽しく生活しています。

〔現状と課題〕

近所付き合いや隣同士の声の掛け合いが希薄になり、一人暮らしの引きこもりがみられるなかで、どの世帯が独居老人なのか完全に把握できず、家の中の異変に気づきにくくなっています。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞市と協力して高齢者の現状把握を行い、データベースやマップ等を作成します。
- ☞ウォーキングを兼ねて独居老人を定期的に見回り、ふれあいを図る体制を整えます。

〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞敬老会やお茶合、カラオケ、ゲートボール等、高齢者を対象にした交流の場づくりを進めます。
- ☞行政と連携して、独居老人が救助を必要とする場合に家外に知らせる仕組みを構築します。

2. 健康で活気あふれる安全・安心のまちづくりを推進します

(4) 「なりわい調査」に基づく「仕事場」づくりと地域産業の育成

目指す
近未来の
姿

久田谷に住んでいるたくさんの人たちが、地元の生産物やサービスを受けられる仕組みが出来て、生活するうえでの大抵のことは久田やその周辺で賄えています。

おもてなし観光を核にした地域産業おこしが進み、久田と縁のある多くの観光客が一年を通じてたくさん訪れています。

釣りや農業体験、海水浴等、久田の日常が商品化され、特産物の土産物等が喜ばれています。

観光客が増えたことで、特産品の開発や企業化が進み、仕事場づくりが着実に進んでいます。

〔現状と課題〕

久田には働く場所が少なく、巖原のベッドタウンとなっています。

起業するにも情報がなく、観光面も発展していないので、対馬の場合はどうしても、会社勤めの人が多くならざるを得ません。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 3地区内の「なりわい調査」により、農漁家、各種製造業者、サービス業者等々、地区民のなりわいの現状と今後の意向を把握し、データベース化します。
- ☞ 手作りの「なりわい電話帳」や「マップ」を作成し、相互に繋いで、地域内で需給できる仕組みづくりに着手します。
- ☞ 地産地消の推進と、久田ならではの特産品の開発や企業化等を推進して地域で働く場づくりに着手します。
- ☞ お船江広場で定期朝市やフリーマーケットを開催し、手作り品や不用品等を販売、相互交換する仕組みを作ります。

〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ おもてなし観光を核にした地域産業の育成に着手します。
- ☞ 空き家等を宿泊施設として活用するとともに、住民総出で観光客の誘致に取り組みます。
- ☞ 地元の農林水産物等の土産物として商品化や、釣り、農業体験、自然観察、海水浴等、対馬の日常を商品化します。
- ☞ 遊休農地等を活用し、「久田地区農場」として起業・雇用を図ります。



3. 地区内の交流を深め、各地区間、他地域との連携を図ります

(1) 「久田まちづくり協議会」の組織化

目指す
近未来の
姿

久田3地区（久田・白子・堀田）まちづくり協議会が組織され、身近なことは行政に頼らず、自分たちで解決するなど、3地区の住民が一緒になって住みよい街づくりのために皆で考え皆で行動しています。できることから始まった久田小学校区内の他地区（尾浦、安神、内山・桃木、久和、内院）との連携が進み、久田小学校区として協議会の再編構想が浮上しています。隣接する巖原小学校区との連携も始まっています。

〔現状と課題〕

久田・白子・堀田の3地区は、共通の財産や課題がありますが、行政区で分かれているため、ともに活動することが少ないです。また、地区によっては、地元の間人だけで高齢者が多く、会の存続が危ぶまれています。早急に、3地区の協力体制を整える必要があります。

活動拠点としての施設が無く、事務機器等もないため、自主的な活動をすすめる環境が整っていません。3地区で自由に使える施設が不可欠です。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞久田3地区（久田・白子・堀田）の協力体制を構築するために、まちづくり協議会を起ち上げ、専門部会を中心に、老若男女、3地区の住民みんなが連携・協力してまちづくりを推進します。
- ☞既存の施設等を利用して、活動拠点づくりを行い、会議室や事務機器を備えた事務室を整備し、情報等を発信できる体制を整えていきます。

〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞各部会を中心とした久田3地区のまちづくり協議会を引き続き推進します。
- ☞久田小学校区内の他地区（尾浦、安神、内山・桃木、久和、内院）との連携・強化を図り、校区協議会としての体制を整えていきます。
- ☞隣接する巖原小学校区を始めとする他の地域との連携にも取り組みます。
- ☞新たに整備された校区内交流拠点施設（「久田の里」（仮称））に合わせて、事務局体制を整えます。

3. 地区内の交流を深め、各地区間、他地域との連携を図ります

(2) 趣味・関心事調査等による交流の場づくり

目指す
近未来の
姿

地域間の交流イベントが復活（昔あった地区「運動会」等の実施）し、共通の趣味を持つ人が集まり、楽しく交流しています。

〔現状と課題〕

久田地区内の交流の場・機会がありません。
共通の趣味を持つ人と知り合う場がありません。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ アンケート調査により地区住民の趣味や関心事等が把握され、趣味の会や講座等、交流の場づくりが始まっています。
- ☞ 昔あった「地区大運動会」が復活し、定着しつつあります。



〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 整備された交流拠点施設の内外で、作品の展示やスポーツ大会などが盛んにおこなわれています。

3. 地区内の交流を深め、各地区間、他地域との連携を図ります

(3) 校区内交流拠点としての「久田の里」づくり

目指す
近未来の姿

久田小学校区内の各地区（久田～内山・桃木地区＋久和、内院地区）間の交流拠点施設としてまちづくり協議会が管理運営する「まちづくりコミュニティセンター」（仮称『久田の里』）が新設され、様々な活動が実施されるとともに、地区内や他地区との交流が盛んに行われています。

〔現状と課題〕

白子には「ありあけ会館」がありますが、久田には46戸が所有する自治公民館しかなく、区全体で利用できる施設がありません。3地区が協力して活動していくための新たな拠点が必要です。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 行政に対して、補助・交付金を活用して、久田地区に、小学校区の地域づくりの拠点施設となる「まちづくりコミュニティセンター」（仮称；『久田の里』）の新設を要望します。
- ☞ 施設ができるまでの当面の拠点施設として、既存の施設（例：旧久田幼稚園建屋）を市から借り受け、3地区のまちづくり協議会の事務所、集会所等として利活用します。



〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 久田3地区のまちづくりの活動が活発化し、校区内の他の地区との連携が進むにつれて既存の施設が手狭になり、活動に支障をきたしてきています。
- ☞ 行政による久田小学校区のまちづくり活動拠点施設「久田まちづくりコミュニティセンター」の設置と並行して、校区内の各地区のまちづくりを連携して進めるための組織として「久田小学校区まちづくり協議会」づくりを進めます。

3. 地区内の交流を深め、各地区間、他地域との連携を図ります

(4) 久田のお宿づくり（島内外との交流）

目指す
近未来の姿

久田にゆかりのある人々が墓参りや里帰り、観光、ボランティア等で気軽に訪れ、滞在できる宿泊施設として「民宿」のほかに「民泊」、「ありあけ会館」、空き家を活用した「ペンション」等の滞在施設が用意され、年間を通じて多くの人々が利用し、久田の人々との多様な交流がなされています。

〔現状と課題〕

たまにしか利用されない家や締め切ったままの空き家が増えてきており、景観や治安を乱しています。

他方で、墓参りや里帰り、観光等で対馬を訪れるために、安くて気軽に利用できる宿泊施設へのニーズが出てきており、「おもてなし観光化」のなかで更に増えることが見込まれます。

〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 多様な形態の宿泊機能を整えるために、「ツーリズム協会」（仮称）を起ち上げ、受け入れ体制やノウハウを先進地等から習得します。
- ☞ 「ありあけ会館」に調理場とシャワー室の設置を市に要望します。
- ☞ 宿泊施設として利用可能な物件のリストをつくり、持ち主と交渉を行い、可能なものから具体化していきます。

〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 「民宿」や「民泊」、「B&B」*、素泊まり、自炊、レンタル等多様な形態の宿泊ニーズに対する受け入れ体制を整えていきます。
- ☞ 観光や釣り、農業体験等々、季節ごとにニーズに合わせた手作りのガイドを用意し、「おもてなし」をします。
- ☞ リーフレットやIT等による情報発信を行います。

*比較的低価格の旅館である「商人宿」と民宿の両方の性質を併せ持つ宿泊施設

